

各位

全4ページ
登録速報(2026-099)
2026年7月22日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記のとおりペントキサゾンの再評価が終了になりましたので、ご連絡します。

再評価終了年月日：2026年7月22日

記

1. 農薬の種類、登録番号及び名称

登録番号 第24377号

種類：ピリミノバックメチル・ブロモブチド・ベンスルフロンメチル・
ペントキサゾン剤

名称：トップガンR豆つぶ250

2. 農薬の物理的・化学的性状

淡褐色粒状 粒径3～8mm

3. 農薬の有効成分の種類及び含有濃度

メチル=2-(4,6-ジメチルピリミジン-2-イルオキシ)-6-(1-メチルイミノエチル)ベンゾエート	1.8%
(RS)-2-プロモ-N-(α , α -ジメチルベンジル)-3,3-ジメチルブチルアミド	36.0%
メチル= α -(4,6-ジメチルピリミジン-2-イルカルバモイルスルファモイル)-o-トルアート	3.0%
3-(4-クロロ-5-シクロペンチルオキシ-2-フルオロフェニル)-5-イソプロピルピリデン	
-1,3-オキサリジン-2,4-ジオン	8.0%

4. 農薬のその他の成分の種類及び含有濃度(15に掲げる事項を除く。)

鉱物質微粉 等	51.2%
---------	-------

5. 農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバ イ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ クロゲワイ シズイ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ 1/2 葉期 但し、 移植後 30 日まで	250g /10a	1 回	湛水散布、 湛水周縁散布または無人航空機による散布
直播水稻	一年生雑草 マツバ イ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期～ 1/2 葉期 但し、 収穫 90 日前まで			

ピリミノバックメチルを含む農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	ペントキサゾンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

使用期限：5 年 6 箇月

6. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) オモダカ、クログワイ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (4) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- (5) 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）で水の出入りを止めること。
- (6) 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- (7) 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁部散布をさけ、本田内で本田全面に散布すること。
- (8) 以下のような条件下では薬害の生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ①砂質土壌の水田、漏水田（減水深2cm/日以上）。
 - ②軟弱苗を移植した水田。
 - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- (9) 直播水稻に使用する場合は以下に注意すること。
 - ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土を行い、稲の1葉期以降に散布すること。
 - ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- (10) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (11) 本剤は吸湿性があるので、濡れた手で作業したり、降雨で濡れることがないように注意すること。また、開封後は早めに使用すること。
- (12) 本剤を無人航空機で散布する場合は次の事項に注意する。
 - ①散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
 - ②専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
 - ③事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置の開度を調整する。
 - ④散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。
 - ⑤水源池、飲料水等に本剤が流入しないように十分注意する。
- (13) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないこと。
- (14) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- (15) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。

- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7. 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

① 毒性情報

1) 眼に対して強い刺激性がある。

2) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。

② 安全上の注意

作業後は洗眼すること。

③ 応急処置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合、医師の手当を受けること。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

8. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

9. 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨
通常の使用方法ではその該当がない。

10. 農薬の貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、子供の手のとどかないなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

本剤は吸湿性があるので、開封後は早めに使用すること。使い残りは、開封口を密封して、湿気が入らないように保管すること。

以上